



野村アセットマネジメント(株)
石黒英之チーフ・ストラジスト

第71回 東海財界倶楽部例会

投資をして、世界を応援していく。 投資で次世代や社会に貢献することが我々の使命。

中部財界フォーラム社の異業種交流会「第71回東海財界倶楽部」は令和8年7月6日、名古屋市中区のアイリス愛知2階 コスモスで開催された。この日、野村アセットマネジメント株式会社チーフ・ストラジスト 石黒英之（いしぐろ・ひでゆき）氏が講師を務め、「2026年後半のグローバル市場の見通しと変化する日本をどうみるか？」の演題で、投資に関しての国内外マーケットの見方や資産運用に関してのポイントを語り、約30人の企業経営者らが熱心に聞き入った。

石黒氏はグローバルなマーケット状況として「2025年4月にトランプ関税が公表されアメリカ株が安値をつけたが1週間足らずで戻った。しかし新聞やメディアは『アメリカは終わった』『アメリカ強時代は終わった』『アメリカ株は買わない』という情報を延々と流したが、そういった情報を鵜呑みにせず、自分自身で考えることが必要で大切だ」と伝えた。さらに「株価は利益に帰帰する。利益が伸びていけば株価はブーメランのように戻ってくるので、情報に振り回されずマーケットに隠れた情報を吸い上げて判断することが求められる」と述べた。

またAIに関しては「非常に需要が高く、とどまるところを知らない状態であるが、AIを使いこなしているのは全世界の80億人のうち10億人程度に止まっている」と示しながらも、「現在スマートフォンをほとんどの人が使っているように、近い将来20億人が使うようになる」と予測。

さらに「今はAIというカテゴリーの中では普及段階の”指示を出すことで実行してくれる”『生成AI』がほとんど。第2ステップの”指示を出さなくてもやってくれる”『エージェントAI』、第3ステップの”ロボットがやってくれる”『フィジカルAI』などがあり、その先には『AIS人口超知能』（人間の知能を大きく超えるとされる仮想的なAIのこと）の世界がある」と語る。今後もAI企業の株価の動きがおおいに気になるところだ。

石黒氏は今日本を代表する会社としてキオクシア・ホールディングス（東芝から分離独立した半

導体部門会社）をあげた。「AIが利用され進化するのに根幹となる半導体は今後さらに伸びていく市場」だからだと言う。また「村田製作所のセラミックコンデンサーはスマートフォンの中で7800個使われているが、AIの半導体データセンター市場で世界1位の企業である」など、大企業だけでなく中堅・中小企業の利益向上、株価向上など今後の日本企業の将来性に期待を込めた。

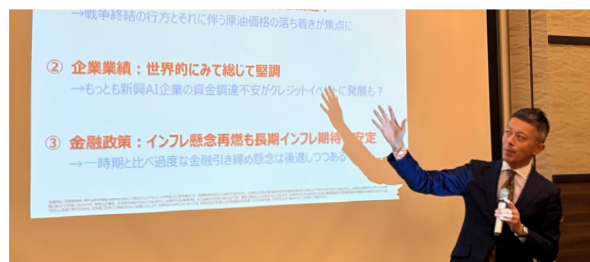
石黒氏が現在実践している研究として『生涯現役で働ける会社作り』を掲げた。戦後、日本で作られた体制が崩壊しつつある現在、税金や年金などに対する不安が大きい。そこで石黒氏は次のような思いを語った。

「生涯現役で働くメリットは3つ。1つ目は『税金を払い続けることで国に貢献する』、2つ目が『働いてお金がもらえれば年金がいらぬ』、3つ目が『働くことが社会貢献となりやりがいとなる』、そしてそれがゆくゆくは『健康寿命が伸びるという効果』を生み出す。日本の財政にとってポジティブなモデルとして自ら実践していきたい」。

最後に石黒氏は「株式投資に出会い、その素晴らしさを知った。スマートフォンが使えるのも、新幹線や飛行機で移動できるのも、時代時代で投資家が投資したからこそ、今わたしたちが享受することができ、便利で豊かに暮らせている。次の世代の人たちに託していくためにも投資でさらにより良い社会づくりに貢献していくのが我々の使命」だと締め括って講演を終えた。



石黒氏の「目からウロコ」の講演に耳を傾ける倶楽部会員



身振り手振りを交えて講演する石黒氏